

令和7年度ごみ減量実践事業企画運営業務
企画競争評価基準等

1 本書の目的

本書は、「令和7年度ごみ減量実践事業企画運営業務」（以下、「本業務」という。）に係る公募型企画競争における契約候補者を選定するための評価基準及びその他必要な事項について定めるものである。

2 審査・評価の実施主体

本業務に係る企画提案書の審査・評価は、本市が設置する「令和7年度ごみ減量実践事業企画運営業務に係る企画競争実施委員会」（以下、「実施委員会」という。）において行う。

3 審査方法

委員は、「令和7年度ごみ実践事業企画運営業務 提案説明書」、「令和7年度ごみ減量実践事業企画運営業務 仕様書」及び本企画競争評価基準に基づき、企画提案書の内容を審査し、採点を行う。

委員は企画提案ごとに採点し、各委員の評価点の合計が6割以上かつ最も高い者を契約候補者とする。

4 審査手順

(1) 一次（書類）審査

企画提案書等の提出された書類のみで評価を行い、ヒアリング審査への参加者を5者程度選考する。

企画提案者が少数の場合は、実施委員会委員長の決定により、一次審査を省略する場合がある。省略する場合には、別途企画提案者全員に連絡する。

(2) 二次（ヒアリング）審査

企画提案者によるプレゼンテーション及び企画提案者に対するヒアリングを実施後、その内容を踏まえ、企画提案書等の評価を行う。

(3) 契約候補者の選定

上記(2)の評価に基づき、契約候補者を選定する。

5 採点の方法

委員は、一次審査、二次審査ともに、提案に対し別添「評価基準表」により、各項目についてA～Eの5段階評価により採点する。

	15 点満点	10 点満点	5 点満点
A (特に優れている)	15 点	10 点	5 点
B (優れている)	12 点	8 点	4 点
C (普通)	9 点	6 点	3 点
D (やや不十分)	6 点	4 点	2 点
E (不十分)	3 点	2 点	1 点

6 最高得点者が複数となった場合（同点の場合）

契約候補者となるべき最高得点を得た者が複数あるときは、評価項目 1 の合計得点が高い方を上位とする。

なお、これによっても優劣がつかない場合は、実施委員会での協議により契約候補者を選考する。

7 企画提案書の提出が 1 者からのみであった場合

各委員の評価点の合計が 6 割以上の場合には契約候補者として選定する。

8 失格となる場合

以下の場合は、企画内容を問わず失格とし、以降の評価・採点を行わない。

- (1) 企画提案提出者が告示書及び提案説明書に記載された参加資格の要件を満たしていない場合
- (2) 見積書に記載した金額が、本市の設定する金額を超えた場合
- (3) 実施委員会において不適切と認められた場合

【別添】評価基準表

評価項目		評価の視点	関連仕様書項目	配点
1	企画全般	本業務の背景・目的を十分に理解した提案となっているか。また、企画全体において、企画提案の条件が満たされており、効率的な事業計画及び企画・運営が提案されているか。	全般	15
2	既存コンテンツの活用を通じた気付きの提供	市の既存事業や既存コンテンツについて、それぞれの特徴を踏まえて、ゲーム形式等、市民が親しみやすい形式で提供され、「まだ取り組めること」に気付きを与えられる内容となっているか。	4(3)ア	10
3	様々なコンテンツへの接触機会の提供	開催回ごとにコンテンツやテーマの追加・入れ替えを行うことで、幅広い市民に、様々なコンテンツ等に触れてもらえるような内容となっているか。	4(3)ア	10
4	3 R の実践につながる企画	市民が3 R を身近な取組として感じることができ、3 R の実践につながるような企画が提案されているか。	4(3)イ	10
5	事業者と連携した企画	より高い減量・波及効果が見込める事業者を連携先としているか（企画に組み込んでいるか）。	4(3)イ	10
6	多数の市民が参加可能な企画	会場や周知・広報等について、多くの市民が参加することが期待できる内容となっているか。	4(3)ア・イ 4(9)	10
7	独自提案	仕様書 4(3)ア及びイに定める業務のほか、高い効果が見込める企画が盛り込まれているか。	4(4)	5
8	若年層を対象とした企画	若年層のごみ減量意識の醸成に寄与し、かつ、ごみ減量に効果的な内容となっているか。	4(5)	10
9	ごみ減量に役立つコンテンツの継続利用促進	企画実施中及び実施後に、市民がごみ減量に取り組む際に役立つコンテンツ（今回の提案内容及び既存のコンテンツ）を、市民が継続的に活用しうるような利用促進策が盛り込まれているか	4(7) 4(8)	10
10	実現性	ごみ減量・波及効果の計上について、実現性や算定根拠の適正さは十分か。	4(1) 4(2)	5
11		スケジュールや経費の積算、業務実施に十分な体制（人員、連絡体制等）において、実現性は十分に確保されているか。	全般	5
合計				100

【採点基準】

	15点満点	10点満点	5点満点
A（特に優れている）	15点	10点	5点
B（優れている）	12点	8点	4点
C（普通）	9点	6点	3点
D（やや不十分）	6点	4点	2点
E（不十分）	3点	2点	1点